

---

# パワーバランス

彰子

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】  
パワーバランス

【Nコード】  
N90430

【作者名】  
彰子

【あらすじ】  
なぜシリーズ化してしまったのか、句読点のない思考をする女と自称神様の再会。

## 前篇（前書き）

注意：

第一話に当たる「神様に会ったかもしれない日」を読んだほうが  
まだ「理解できる部  
分が増えます。

## 前篇

今日、私は世界のパワーバランスとやらの主人になっただらしい。

「今日はなんだかいい気分」

心を病んでいた日々が嘘のようだ。

私は会社のベランダで風を感じている。

あ、すいません。自己紹介がまだでしたよね。

石山多恵と言います。

あ別に石山さんとかさんづけで呼ぶ必要はないですよただ多恵ちゃんとかあんまりゼロ距離的な呼び方で呼ばなければいいわけで調子に乗って多恵とか呼んできた日には彼氏とか思い出してうつにおちいますからあははそんなですよこの前私ったらひどいふられ方をしてそのことはまあいいんですけどねその後やつぱりストレス食いしちゃったんですよねそれでちよつと体重増えたんですけどまあプロポーシヨンのには問題ないわけで

「おい石山多恵」

ちよつと待ったってくださいね何か今変な声したかな気のせいじゃないかなあれおかしいな小学校の頃から地獄耳と呼ばれていたのにはあははなんだか最近じゃだめみたいだなこれはおかしいでもそんな日だってあるかなだつて人間には調子がいい日と悪い日

「その多恵」

ほんとにすいませんなんか力チンとくる音がしますねあるいはなにかの鳴き声とかでしようかなんなんでしょうか本当に世の中狂ってますねやんなつちゃうな誰かが私を正気の沙汰でないほどのフレンドリーさで呼んでいるようですこの石山多恵を最初はフルネームでその次は下の名前のみでなぜ下の名前で呼ぶかな誰だこら後ろから不愉快な呼び方で呼ぶのはいや別に親からもらった名前にイチャモンつけるわけじゃないけどな小学校の頃じゃりんこ多恵という不名誉なあだなをつけられてからつい一年前まであんまり自分の名前好きじゃなかったんだよおいとこころが元彼がそんな傷を持つおまえが好きだよと言ったんだよそんな彼がわけのわからん女とできてしまったところからすべてが変わっちまって私の記憶にボーリング作業でトラウマとやらを植え付けやがった今から思えばあのやろうのおまえが好きだよの後ろには必ず（笑）マークが差し込まれていたにちがいないああ完全に思い出しちまったためえの声でどうしてくれるんだこのやろうしかもなんだか聞いたとたんによな感情が発露するような声のやろうだなまるでこの前のストーカーやろうみたいな誰だよためえ！

「私は神だ」

振り返ると、やつがいた。      y a - y a - y a h - y a - y a y a y a h - )

この前の、ストーカーやろうだった。

なななな何してるんだよここは会社だぞためえら日陰者にはまったく入ることのできない絶対領域のはずなのにやてめえらオタクはこの絶対領域も三次元<sup>リアル</sup>では拜むことすらかなわんはずだがとかくてめえどうしてここにいるんだよあそつかストーカーだからかそうだよね私ってほんとばかーえへへごめんねなんかあなたのこと

勘違いしていたみたい私ねあなたのこと軽いストーカーだと思つてなめてたんだでもうわー本物だよこの人なんかねそこまでくるとちよつと尊敬つてそんなわけねえだろうが気持ち悪いよキモイと省略できないくらい気持ち悪いよというか生きていたのかてめえどこのマンガ喫茶で数日難民になるとか言つていたはずなのに結局ずつと家出たきり帰つてこなかったじゃねえかいや別にてめえの家を監視したわけじゃないからな断じてあれかプチ家出か女子高生みたいなことしてるのかてめえは家の隣のおばちゃんから行方不明届出されてるぞ親が聞いたら泣くぞというかよく近隣住民の皆様の言葉を拝聴したらてめえ家賃も滞納しているそうじゃねえか働け今すぐ働くんた自分が神であるとかどうとか言ってる場合じゃねんだよさあ自分の手で未来を切り開くんたもしくはてめえの好きなキャッチボールのたとえでいくなら労働意欲というボールをそこらのコンビ二なりに投げてやるんだそしてアルバイトという血わき肉おどるキヤッチボールでも始めてみるんだなあなんで私はてめえのことなんぞ心配してるんだろうやっぱり同情してしまったのかそうか私はなんて優しいんだはいけないこれ以上優しくしてしまうとこの男は勘違いしてしまうんだああおれはこの人に愛されているとそしてこの男のストーカー行為はよりエスカレートしてついにはこんな所まで来てしまつたんだな！

「あいかわらず頭の中では早口だな」

つかんだ拳をふーりおろーすー 自分を保護すーるためにー

「…そしてあいかわらず殺意を常にみなぎらせた危ない人間だ。これでの男がこの期間の間に密かに合気道を極めたということにしなければならぬではないか」

男はチャゲになりきつた私の腕をすつとつかんで受け流し、離すと



自慢のサラッサラヘアがアリまみれになったストーカーやろうは、  
やっと立ち上がった。

「人間の限界をはるかに超えたアリ投げ行為……病んでいるがすばらしい」

「はあ、はあ……なに悦に入ってるのよ」

「実は君に頼みがある」

「私は君に頼まれるつもりはない」

「世界のパワーバランスが崩れそうなので、しばらく共同戦線を張ってほしい」

はいきた私の発言無視。

世界のパワーバランスなんだよそれおいおい現実に戻れよ私はさっきの忠告を二度してやるほどやさしくないぞというかそれが世の中の道理つてもんよそれはゲームの中の話ですかそうですよねそして共同戦線を張れとなるほどなるほどでも私そんなゲーム持ってないんですよというか私にあってゲームの趣味があるなんて考えたんだ足りない頭をもう少し回転させたほうがいいんじゃないかなかなしいかこれはお前の頭に必死で合わせてやっているんだからなほ本当なんだからねっもうっばかっばらこっこの好きなんだろうがこんな女本当はいねえよばあかこれが真実ほら名探偵小学生だって毎週いつてるだろ真実はいつも一つていうかあの小学生ずっと学年あがらないよねということは一日に二件以上殺人事件にかかわっているんじゃないのかなだってもう十四年以上続いているでしょ実は主人公が殺人マシーンじゃねえのって勢いだよあもしかし



てあんだコ ンに狙われているわけだつたら好都合なんじゃないあんなに手の込んだ殺され方するならあんだのひきこもりの人生もドラマティックに終われるじゃないえ違うのゴツメンだつてあんだ空想と現実の区別がつかなくなつてきているんでしょかわいそうだから話を合わせてあげようと思つてだつてカウンセリングが必要な人間に対しては否定は禁物だものねはいけないまた優しくしてしまつたこれにより男はますますつけ上がりストーリーカーへの道を突き進んでしまうことになるのだつたそうか私に責任があるんだ私にはこの人間を更生させる責任があるだから私はこの男に対して厳しく当たる必要があるんだというわけで私の視界から完全に消え去つてほしいんですけど！

「いろいろ言いたいことはあるが、「かなかな」などの発言は控えてほしい。私の中で眠っているオタクが猛烈な速度で目覚めようとした。制御できなくなつたら私は私でなくなり、世界が終わる」

「で、なんなんですか、かわいそうな奴」

「私はか「かわいそうな奴、もつと具体的に用件を言いなさい」

「これを、いわばペットとして飼つてほしい」

はああああ何いつちやつてくれてんのお前私がアパート暮らしなの知つてんだろうが…え…ああえかわええええこおいつめつちやかわいいやあん何このキュートな瞳お前どうしたんこれえどうしたらこんなにかあいく生まれてしまつたわけおいお前その子から手を離せいいから手を放すんだ汚ねえ手で触つてんじゃねえつていつてんだる感染る貴様のオタク臭とやらが感染るといつかむしる浄化されるほらこの子のけがれなき魂によつてお前の存在そのものが浄化されるべきなんだ跡形もなく消え去るべきなんだよおしよし気持悪かつ

たねええ今お姉ちゃんが今すぐあいつを世紀末的に消毒してあげるからねひどいことされなかったかいよおおしよ何ムツゴウを見るような顔してんだよこのかわいそうなストーカーやろうお前無職のくせにこんなかわいらしいものを手元に置いておくんじゃねえよ生活力のないお前がこの究極生命体を目の前にしていたら何をするかわからないというか最終的に焼いて食うんじゃねえのかそうか焼いて食うつもりだったのか消毒の時間だいずれそうするつもりだったが今すべきであることがはっきりした覚悟はいいかこのやろう断末魔の声を聞く前に一つ質問してやるこの史上最強にかわいらしい生き物の名前を教える。

「それが世界のパワーバランスだ」

は？ え？ あわわ？

「これが、世界のパワーバランス？」

「信じられないかもしれないが、そうだ。非常に脆い。強い人間の手でコントロールすべきものだ。…これまでは私が何度か調整しようとしてきたが、結局なんども崩れてしまった。そこで、今回は石山多恵、お前に……」

「お前」

「いや、あなたさまにお願い「死にたいのか」

「はい？」

死にたいのか、と聞いている。

「いいえ、死にたくはないです。というより、神なので死なな  
「聞かれたことに答えろ」

前篇（後書き）

後篇に続く（え）

## 後篇（前書き）

注意：意味不明のハイテンションが続きます

## 後篇

何度か世界のパワーバランスを崩した、といったな。

このかあいいものをどうにかした、ということだよな。

てえめえええのちいいはああなあにいいろおおおだあああWR

YYYYYYYYYYYY

…

…

…

「殺<sup>ち</sup>っちゃまった……」

「素晴らしき……ヤンデーレpowerウヒツヒ」

男は立ち上がった。

生きて……いるのか？ いや、人格的に大切な部分が死んでいるよ  
うな気がする。

「ウヒツ……それなら各国のスパイ倒すのも余裕じゃねえ？ 実は  
よお、世界のパワーバランスを崩そうとする人間がたくさんいるの  
でアルヨ。この封印された力……オタアークエネルギーを解放した  
ら奴らなんかひとひねりなんだけど、それじゃ世界が滅んじやうん  
だどん。N Kのマイドン萌えウヒツ……は、離れる、今の私は危  
険すぎる……ウヒツウホツ」

うわあ……やばい、こいつはやばい。とても面倒くさい。私以上に  
面倒くさい。

なんか、ごめん。

わかった、協力するよ。協力するから。

「分かればいいんだどん」

…うぜえ。

「とにかく、そのパワーバランスを崩さないようにすればいいんだ  
どん　まあ、えさと散歩やればいいだけだよ。あと、世界の破滅  
を狙うやつらが襲ってくるから、持ち前のヤンデーレパウワで殺<sup>や</sup>つ  
ちまいなッ」

普通に話すときに死んだ目をするの自重しろ。

…しかしまあ、パワーバランスって抽象的なものなんじゃないのか  
ね。

「お前にわかるわけないから説明しないんだどん、クエツクエツク  
エ。ばか。クエツ」

…つくづくうぜえ。同じ土俵にはあがらないからな。

「用件はそれだけ……だ」

お、やっとストーリーカーのまともな部分に戻ってきた。

「世界は、滅ぼさせない……パワーバランスを頼む。ぐふっ」

確かに危険だな、中二病。

「オタアークエナジィ。ダークサイド。……ぐふっ」

言うならもつと勢い付けろよ。

というわけで私は派遣業をつづけながら、世界のパワーバランスの主人になった。

散歩の途中で襲いかかってきた各国のスパイという名の変態どもと激闘を繰り広げ、拳でしか分かり合えない部分において十分に友好を深め、時には拳でパワーバランス萌えについてひとしきり語り合えるまでになった。割と、以前の生活と変わるところはなかった。これまでも、いろいろなものと戦ってきたからだろうか。

そんな日が続いた週の末日に、ひさしぶりにあの自称神様に出会った。

「世界のパワーバランスとは日常によって成り立つ」

お前、もう（気障な感じでしゃべって）大丈夫なのか。

「大丈夫だクエ……なに、あれほどの傷、どうってことないぞん」

聞かなかったことにするね。

「パワーバランスはどうかクエツ？」

元気だよ。そして相変わらずかあいいい。

「必死で戦ったところに、平和ができる……たぶん、そんなものだぞん」

お前の語尾については、当分平和は来ないだろうな。



…だれもが、戦っているんだね。

「そうだどん」

あなたは戦わないの？

「…何と」

自分の人生とかと。

「戦っているぞ」

うそつけ。逃げてんだろ。逃げている。もっとも目の前にある感情から。

「!?!」

パワーバランスをもらって、私、嬉しかったんだよ。あと、キヤツチボールとか。戦わないの？

私は戦うよ。戦って戦って、いつか負けて死ぬ。一緒に戦ってよ。負けるまで一緒に勝とうよ。

「俺は……」

何かあるとか、ないとかじゃないでしょ。

つまり、私に付き合う気があるのかということ。  
イエス・ノーのどっちよ？

「イエス」

ふっ。

「私はイエスだ。つまり、神だ」

…うぜえ。

というわけで、私と自称神様は二人で世界のパワーバランスの散歩に行くことになった。

「結構ヤンデレもいいかもだどん」

どん、もいいかもね。

本当の神様世界のパワーバランスをどうか崩さないでくださいそしてできれば弱肉強食がルールとなっている世界の中でこんな二人組が馬鹿な会話をしながら生きていくことを見逃してください最初はあなたの存在なんか信じなかつたけれど今なら少し信じられる気がするよあとできれば戦争やら飢餓やら地雷やら差別と偏見やらを減らしてくださいそれからそれからとりあえず私が思いつけるすべてのいいことが起こりますようにあもしかしてこの自称神様をよこしてくれただのつてあなたなのかなだとしたら結構感謝すべきですよねそうですよねそれからああいろいろとあなたを恨んだこともあったけれどそれは水に流してくださいそれから好きです大好きです何度も言わせんな恥ずかしい。

「私は神だ。石山多恵、今考えていることはわかっているぞ。パワーバランスがかあいいということだろう！そして私をつざいと思っっているのだろう！」

何度も頭の中で言わせんな恥ずかしい。

f i n

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9043o/>

---

パワーバランス

2010年11月14日04時57分発行